

編集後記

アカデミック・ジャパニーズ・ジャーナル (AJJ) 第 9 号は、実践報告 3 編、調査報告 5 編の計 8 編の掲載となりました。いずれの論考も読み応えがあり、大いに刺激を受けました。今号で最も印象的だったのはアカデミック・ジャパニーズ (AJ) の広がりです。それはライティングやリーディングといったスキルの広がりではなく、AJ における学びそのものの広がりです。尾関氏の論考における「知識を獲得することを目的とした授業にとどまらない日本語授業のあり方」、山口氏他の論考における「ジェネリックスキルの育成」、吉田氏の論考における「主体的・対話的で深い学び」、中井氏の論考における「アカデミック・ジャパニーズの 3 本柱」、これらは表現こそ異なりますが、めざすところは同じように感じられました。AJJ 第 3 号の編集後記では、初代編集長の門倉正美氏が「アカデミック・ジャパニーズは、単に大学で学ぶためだけでなく、この社会でより良く生きるために寄与する日本語力を養うことをも目的としている。」と述べています。これらのことから、私たちは実践を行うにあたり、めざすべきゴールを設定するとともに、学習者はいったい何を学ぶのかを明確にしなければなりません。

会員の皆様、より多くの「AJ における学び」を共有するために、ぜひとも投稿していただきたいと思います。

(編集委員 N. T. 記)

刊行：2017 年 7 月

編集委員* (**は委員長)・アドバイザー五十音順

牛窪隆太 (関西学院大学)・*大島弥生 (東京海洋大学)

小笠恵美子 (東海大学)・*影山陽子 (日本女子体育大学)

門倉正美 (横浜国立大学名誉教授)・木下謙朗 (龍谷大学)

佐藤正則 (山野美容芸術短期大学)・*鈴木秀明 (目白大学)・高橋圭子 (フリーランス)

**田中信之 (富山大学)・内藤真理子 (神田外語大学)・二通信子 (室蘭工業大学)

松本明香 (東京立正短期大学)・宮崎七湖 (新潟県立大学)・村上康代 (関西大学)

茂住和世 (東京情報大学)